

北九州市立学校の栄養教諭としての資質の向上に関する指標（案）

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】
	栄養教諭として、職務に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年栄養教諭として、職務に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	中堅栄養教諭として、主体的に組織運営に関わるとともに、職務に関する専門性を高める。	エキスパート栄養教諭として、組織運営を主導するとともに、職務に関する専門的で高度な実践を展開し、指導性を発揮する。	高い指導力や豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。 豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。 (管理職)
教職の素養 チーム学校を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、学校外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身につけ、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持ちながら、教育活動を展開することができる。		
	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。		
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒等、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。		
	D 学校組織の理解と運営	栄養教諭の役割、学校組織、協働性の意義を理解している。	チーム学校の一員として、学校経営方針に基づいた食育推進の方針を立て、指導することができる。栄養に関する事務を正確・丁寧に扱い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、学校経営方針の実現に向けて学校運営に参画することができる。栄養に関する事務について、他の教職員に範を示すことができる。	学校運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、学校経営方針の実現に向けて学校運営を推進することができる。栄養に関する事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。
	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢をもちメンターとしてメンターの課題や悩みに気付き、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。
	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。危機を予測し、未然に防止する取組と、危機の早期発見・応を組織的に行うことができる。
	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。
学校における食育の推進	H 連携・協力	関係職員等と連携しながら食育を推進することについて理解できる。	食育推進組織に継続的に関わることができる。	校内及び校外の関係者等と連携・協力し、食育推進組織を活用した食育を主体的に推進することができる。	学校教育活動全体を視野に入れ、指導体制を整えて効果的に食育を推進するとともに、食育推進組織の計画、実践、評価、改善を図ることができる。
	I 教育指導	食に関する指導の授業のイメージをもつことができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえた食に関する指導ができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえ、栄養教諭の専門性を生かした授業を構想し、指導ができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえ、栄養教諭の専門性を生かした授業を構想し、指導性を発揮することができる。
	J 個別的な相談指導	栄養教諭が行う個別的な相談指導について理解できる。	個別的な相談指導の内容に関する基礎的知識を習得し、指導ができる。	個別的な相談指導の内容に関する専門性を高め、学級担任、家庭等と協力して指導ができる。	個別的な相談指導の内容に関する専門性を高め、学級担任、家庭等と協力して指導性を発揮することができる。
	K 栄養管理	成長期の栄養管理の方法について理解できる。	年間献立計画と年間指導計画を関連付けることができる。	児童生徒等の栄養摂取量等の実態を把握し、現状について評価し改善を図ることができる。	献立作成や栄養量等の現状把握について、他の栄養教諭に指導・助言ができる。
	L 衛生管理	学校給食における食中毒や感染症について理解できる。	学校給食衛生管理基準について理解し、的確な作業工程表や作業動線図を作成することができる。	学校給食衛生管理基準に基づき、担当する施設の衛生管理について評価し改善を図ることができる。	学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理について、他の栄養教諭等に指導・助言ができる。
生徒指導	M 児童生徒理解指導・支援	児童生徒指導の意義・重要性を理解できる。	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を理解し、他の教職員と情報を共有することができる。また、個々の悩みや思いを共感的に受け止めるとともに児童生徒一人一人に向き合うことができる。	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を理解し、教職員相互の理解を促進することができる。また、良さや可能性を伸ばす姿勢で支援し、児童生徒一人一人に応じた適切な対応や指導ができる。	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を踏まえた、学校全体の組織的な取組を促進することができる。また、児童生徒一人一人の様々な状況に応じた適切な対応について指導性を発揮することができる。
N 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別な配慮を必要とする児童生徒の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、児童生徒の特性や実情を踏まえた個に応じた学習上・生活上の指導及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な指導及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や校内での連絡調整を図るなど、学校全体での指導及び支援を主導することができる。	
O ICTや情報・教育データの利活用	食に関する指導や給食監理及び校務へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力(情報モラルを含む)育成の意義や効果を理解している。	ICT活用や教育データ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食に関する指導や給食管理及び校務に生かすとともに、児童生徒の情報活用能力を育成できる。			

管理職の指標は、北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標ステージ4(管理職)参照

北九州市立幼稚園の園長及び教員としての資質の向上に関する指標（案）

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】
	教職現場での実践的課題を見直し、求められる資質の基盤を形成する。	チームの一員として教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	指導(保育)力を発揮し、モデルリーダーとして主体的に園運営に参画する。	高い指導(保育)力を発揮するとともに、重要な校務分掌の責任を担い、園運営を推進する。	高い指導(保育)力や豊富な経験を生かし、学級(園)運営を推進する。(教諭) 豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な園運営を行う。(管理職)
教職の素養 チームを支えるマネジメント	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、園外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身につけ、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持ちながら、教育活動を展開することができる。		
	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。		
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、幼児、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。		
	D 園組織の理解と運営	学級担任の役割、園組織、協働性の意義を理解している。	チームの一員として、園の経営方針に基づいた学級経営の方針を立て、指導(保育)することができる。学級事務を正確・丁寧に行い、効率的に処理することができる。	モデルリーダーとして、園の経営方針の実現に向けて園の運営に参画することができる。学級事務について、他の教職員に範を示すことができる。	園運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、園の経営方針の実現に向けて園の運営を推進することができる。学級事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。
	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、園外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢を持ちメンターとしてメンティーの課題や悩み気付か、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。
	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	園全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。
	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。
保育	H 保育構想 保育展開 保育の評価・改善	幼児の実態把握の必要性や幼稚園教育要領、指導技術の基礎を理解している。	幼児の実態を把握した上で、幼稚園教育要領の理解を基に、指導と評価の計画を立て、指導技術の基礎及び応用を踏まえた保育をすることができる。	教材研究を通して目指す幼児の姿をイメージし、指導と評価の一体化を想定し、幼児の実態に応じた発展的な保育をすることができる。	園の経営方針に基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、保育に臨むことができる。幼児の実態に応じたより発展的な保育をすることができる。適切な保育の評価と指導計画の改善を組織的・計画的に実践するためのカリキュラム・マネジメントを行い、全職員の保育力向上を推進することができる。
		保育参観の在り方や、保育者の保育の支援、幼児の変容のとりえ方等を理解している。	自身の保育を振り返り、課題をつかみ、改善に生かすことができる。優れた保育からよい保育のイメージをもつことができる。	適切な保育評価を行い、さらなる保育力の向上を図ることができる。優れた保育からよりよい保育のイメージをつくることができる。	
幼児理解	I 学級経営・幼児理解	幼児理解の意義や方法、個や集団を指導するための手だてを理解している。	学級一人一人の背景を意識した学級経営を行うことができる。幼児に寄り添い、保護者や園内組織等と連携し、保育を行うことができる。	幼児を取り巻く環境を的確にとらえた幼児理解ができる。各年限、園全体の動きを考え、早期発見・早期対応に努め、組織的な保育を行うことができる。	園全体の幼児の状況を教職員相互で共通理解できるように働きかけることができる。各年限、園内における諸問題の未然防止に努め、園内組織での情報の共有を図り、適切な保育を推進することができる。
		特別な配慮を必要とする幼児の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、幼児の特性や実情を踏まえた個に応じた保育及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な保育及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や園内での連絡調整を図るなど、園全体での指導及び支援を主導することができる。
K ICTや情報・教育データの利活用	保育へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力・情報モラルの育成の意義や効果を理解している。	ICT活用やデータ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、幼児の実態や保育の内容を踏まえてICTを日常的・効果的に活用して、保育を展開することができる。幼児の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについて指導することができる。			

管理職の指標は、北九州市立小学校の長及び教員としての資質向上に関する指標(ステージ4(管理職))を参照